

園芸療法活動報告

学生相談室では、二〇〇〇年度より人間科学研究所との共同研究事業として園芸療法活動を行っている。今年もグループ向けの園芸プログラムを中心に報告する。

今年も、専任カウンセラーであり園芸の専門家でもある青木の指導のもと、三年間かけて園芸療法スペースの畑の改良と整備を行ったおかげで、使える土壌をほとんど余らせることなく使用できる状態となった（写真①）。園芸プログラムとしては、



写真① 畑の全景

園芸のワークに加え、畑の収穫物（通称『甲南野菜』）を使用したグループの内容が昨年よりさらに充実したものになった。

今年の課題は鳥獣害対策であった。最初に六月頃トマトをカラスに狙われ、畑の周囲に防鳥ネットを張った。しかしその後、アライグマが出現し残念ながらトマトは全滅、

ナスまでかじられた。ピーマンにも試しかじりがしてあった。アライグマは夜行性なので鼻が利くようで、さすがに唐辛子は無事であった。メロン、マクワウリを最も日当たりのよい場所に植え、ネットを張った。しかし、熟した果実はかじられ爪あとを付けられるので腐ってしまい、一〜三個しか収穫できなかった。八月の後半からはようやく被害がなくなった。どうやら山の本々の実が採り始めたからだろう。

サツマイモは昨年より苗の本数を増やした。ジャガイモは北海道向きのもの（商品名『北の光』）と、温暖地向きのもの（二品種の種芋を、三月中旬に植えた。北の光は北海道では五月に植えて九月に収穫するのだが、ここでは六月に収穫した。

五月、北側の土地（沼）に近い場所に、昨年通りの手法でサトイモを植えた。ズッキーニは植える時期が遅すぎたのと、暑さのため、ともに雄花が咲かず、不作であった。カボチャも同様であったが、八月、一時的に暑さがゆるんだ頃、一個だけ実をつけた。九月中に大根、カブ、チンゲンサイ、ハクサイ、キャベツ等秋冬野菜の作付けを行った。一〇月にイモ類の収穫を行う。この間延々虫取り作業が続く。

次にグループ活動について報告する。学生相談室では、毎週金曜日の午後、学生向けの「金曜Reアワー」という自由参加型のグループを開催しており、その中で季節に合わせて園芸療法プログラムを導入している。今年、前・後期合わせて計六



写真③ プランターでの野菜作り

五月の『春のガーデンング』は二日間実施した。五月一日に、学生相談室屋上の園芸



写真② サツマイモの苗植え

回実施した。参加人数は三六名、今年は『パピルス紙作り』が人気で九名参加した。内容は、サツマイモの苗植えとプランターでの野菜作り、パピルス紙作り（五月）、サツマイモ・サトイモの収穫と試食（十一月）、クリスマスアレンジメント（十二月）である。また、畑で収穫した夏野菜を使って、六月の『手作り窯でピザを焼こう』と七月の『自家製野菜でパスタ』という調理プログラムを実施した。その他、七月の『絵手紙を描こう』では、トマトやナスがモデルとして使われた。個々の内容は以下の通りである。



写真⑤ パピルス紙完成！

五月三日に沼で育てたパピルスを使い、『パピルス紙



写真④ 育ったパピルス

療法スペースの畑にサツマイモの苗を植えた（写真②）。今回は近くのコープリビングまで皆で苗を買いに行くことから始めた。翌週五月一七日にも、皆で夏野菜の苗を購入した後、一八号館入口の駐車場に設置したプランターに苗を植えた（写真③）。今回はトマト、ナス、唐辛子、ズッキーニの苗を植えた。買い物と園芸を授業時間内にこなすハードなスケジュールであったが、二週続けて参加した学生は、かなり作業工程に慣れ、初めて参加した学生に積極的に話しかけ説明していた。その後、先週植えたサツマイモの苗の成長を観察し水やりを行った。



写真⑦ パスタ用トマトソース



写真⑥ 夏野菜のピザ

六月一四日に畑で収穫したナス、ズッキーニ、青ジソ、ルッコラ、パセリ、ネギ、青シズをピザの具に使い、おいしく頂いた(写真⑥)。また、七月一二日に収穫したトマトを使ってパスタソースを作った。(写真⑦)。参加した学生の中には、「おいしかったから家でも作ってみる」と話して、レシビを見ながら熱心に

作り」に挑戦した(写真④⑤)。昨年までは秋に行っていたが、紙の出来がよくないため、今回は細いが柔らかい若い茎を収穫し使用した。すると繊維同士がうまくくつき、趣のあるパピルス紙が完成した。今回は生物学科の学生が数多く参加しており、学術的にも興味を示し、様々な工夫を凝らしていた。



写真⑧ サツマイモの収穫

昨年から引き続き、今年も青木を中心に園芸療法スペースの畑の改良がなされて、サツマイモ以外にも一年中何某の野菜の栽培が行われ、旬の時期に旬の野菜が収穫できるようになった。園芸以外の料理や工芸のReアワーのプログラムでも、収穫した『甲南野菜』が大活躍している。命ある植物を扱う難しさを伴うが、

質問をする姿が見られた。一〇月二六日に『サツマイモ掘り』を行った(写真⑧)。昨年より植える本数を増やしたため、豊作であった。今後の予定として、十一月八日にサトイモを使って芋煮を、十一月五日にサツマイモでお菓子を作る予定にしている。また、一二月には、バラやカーネーション、黄金ヒバなどを使いクリスマスにちなんだアレンジメントを製作する予定である。アレンジメントでは個人の作品に加え、一人一本ずつ花を選び、順番にオアシスにさしていく共同制作も計画している。そして、園芸に興味を持つ学生達とシクラメンやサクラソウ、パンジーなど冬の草花の寄せ植えを作るつもりにしている。

今後も自然に触れ合い、または食育する機会を提供する場として、学生相談室という限られた場でできる工夫を模索しながら、園芸療法プログラムを実施していきたい。

(渡里 千賀)